

(様式 2)

「桐生市男女共同参画計画（令和 8 年度～令和 12 年度版）（案）」
に対する意見提出手続の結果

- 1 意見の募集期間 令和 7 年 12 月 10 日（水）～令和 8 年 1 月 9 日（金）
2 意見の提出者数 1 人
3 意見の件数 11 件
4 担当部課 市民生活部地域づくり課
電話 (0277) 32 - 3129（直通）
ファクシミリ (0277) 46 - 1028
電子メール chiikizukuri@city.kiryu.lg.jp

5 提出された意見の要旨と考慮の結果

1≪各指標≫についての意見

番号	意見の要旨	考慮の結果（意見に対する市の考え方）
1	<p>前段の背景のところに、桐生市の現状からみる課題：世界、国、県、桐生市の男女共同参画にかかる政策的な歴史概要が述べられ、これまでの計画にかかるデータが表として記載されていますが、背景の箇所、また本計画の基本理念、基本目標のみで、前計画、本計画案は上記の上部機関の政策的な情報を基に桐生市で作成した市民意識調査の結果をもとにこれらの指標が抽出されていることから、基本目標等の課題、及び指標の選定がトップダウンとなっていると感じます。市として認識されている桐生市における具体的な男女共同参画の問題などが見えておらず、具体的に市としてどの点を課題として認識し、どのように向上させようとしているのかがこの成果目標を見るとよく分かりませんでした。本来、現状の具体的な課題を含まれた形で目標が設定されるべきではないか考えます。したがって、現計画は桐生市としての課題/問題が何なのかがわかっていないまま、意識調査の結果の数値を上げようとしているだけのような印象を受けます。目標の中には、最終的に具体的なアクションに通じる指標、加えて、目標数値達成のための課題に即した施策・活動なども記載していくことで、市民にも市役所が何を課題と感じ、どのようにその課題に取り組んでいこうとしているのかが見えてくると思われます。</p>	<p>本計画では、国や県の流れや状況のほか、現行計画（桐生市男女共同参画計画（令和 3 年度～令和 7 年度版））の指標における達成状況から (1) あらゆる分野における女性の参画促進、(2) 固定的性別役割分担意識の解消の 2 点を特に注力して取り組むべき課題として抽出し、これらの課題を解決するための施策や目標値、市の担当課や市内事業者、市民の皆さままで取り組むべき事業や行動について明記しております。</p> <p>しかしながら、現行計画の達成状況を課題の上に記載しているため、課題が分かりづらくなっている点を考慮し、課題と達成状況の掲載順序を修正いたしました。</p>

2	<p>第三章の施策の展開の箇所、各部署で実際の事業実施を基にした前計画にかかる評価を加え、実施方針の箇所が中心にするのが良いのではないかと思います。また、ここで指標を入れ込み、全体としては目標・方針を記載して、原案で記載されているそれにかかる少数の指標は全体をうまく反映できないこともあり記載しなくてもいいのではないかと思います。</p>	<p>各部署が実施する各種施策に対する評価については、事業ごとに目標値を設定し、桐生市男女共同参画計画実施状況報告書において毎年度報告を行っておりますので、本計画ではこのような記載方法としております。</p>
3	<p>「第3章施策の展開」を見ますと、市役所各部署の取組などが目標ごとに挙げられているなか、この各部署による施策と成果目標にギャップがあり、全体としての構成が分かりにくいです。例えば、最後にも記載しましたが、外国人への日本語指導に関して、目標の指標が実施内容全般をカバーしていない内容になっていますが、これが全体の指標として使用されるのは良くないのではと考えます。</p>	<p>各部署が実施する各種施策に対する評価については、事業ごとに目標値を設定し、桐生市男女共同参画計画実施状況報告書において毎年度報告を行っておりますので、本計画ではこのような記載方法としております。</p>
4	<p>桐生市男女共同参画計画（令和3年度～令和7年度版）の指標における達成状況）P. 5 意識調査の結果は、年代別、男女別の結果などの情報を加えることにより、その目標達成のためのターゲットグループの特定もできることから、公的機関としての施策、予算付けについても理由付けができるので良いと考えます。世界的なジェンダー主流化の第一歩として、人数等のデータを取る、公表するときに男女別のデータを取るようになってきているので、もしまだされていないようであれば、これを始めるのでも立派な男女共同参画にかかる施策だと思います。</p>	<p>目標達成のためのターゲットグループの特定は、現状値改善の一助になるものと考え、ターゲットグループを念頭に置きながらの施策実施を心掛けておりますが、施策によっては年代や性別を区切ったの実施が難しいものもあることから、本計画ではこのような記述となっております。 なお、年代別、男女別の結果については、「桐生市男女共同参画市民意識調査報告書（令和7年3月）」にまとめ、ホームページに掲載しておりますので、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。</p>
5	<p>基本目標Ⅰにかかる「男は仕事、女は家庭」の質問に関しては、課題となるのはどの世代なのか、などの対象がわからず、今後の対策をどのように行うのかも不明です。また目標値の設定根拠も見えてきません。</p>	<p>固定的性別役割分担意識の解消については、親世代の無意識の思い込みに影響を受ける可能性がある就学前から、全世代に渡る方たちが施策の対象であると考えております。目標値の設定根拠については、現時点での達成状況から鑑みて設定しております。</p>
6	<p>基本目標Ⅰの指標2「セミナー参加者の「参考になった」とした人の割合」については、実施したセミナーの内容の評価にはなる設問と思いますが、これを市の男女共同参画の指標とするのは無理があるような印象です。実施</p>	<p>参加者数はテーマや開催方式、定員などの要因による回ごとの規模差が大きいため、単純比較に不向きであり、専門性の高い小規模回の価値が見えにくくなる恐れがあります。また、男女共同参画の推進では参加自体よりも、理解の深化や実践への結びつきを重視す</p>

	<p>の詳細が不明の状態でのコメントで恐縮ですが、例えば、このセミナーがオープン参加で実施されているのであれば、参加者人数の増加や本年度初回参加者人数などの方がまだ適しているように思います。</p>	<p>るため、「参考になったと回答した割合」は主観指標ながら、開催規模による影響を受けにくく、内容の有用性や伝わり方の判断に適していると考え、現行計画(令和3年度～令和7年度)においてはこのような指標となっております。 なお、本計画においてはこの指標の掲載はございません。</p>
7	<p>基本目標 II に関しては、大きな違和感はありませんが、もう少し情報をいただくと私の様な馴染みのない市民にも理解しやすいと思います。例えば、各種委員会等における女性委員の割合に関して、各種委員会とは何でしょう？脚注などに説明を追記していただくと助かります。また、ママ&パパ教室参加者における父親の受講率の分母は市内の特定時期(例えば母親が出産を迎える前など)の子どもを迎える市内在住の父親の数でしょうか。各指標にかかる現状について、説明、分析なども計画に含まれると市民の理解も深まると思います。</p>	<p>「各種委員会等」を「市の審議会等付属機関」と改めました。 また、ママ&パパ教室参加者における父親の受講率については、参加世帯を分母としていることから、指標を「ママ&パパ教室参加世帯における父親の受講率」と改めました。</p>
8	<p>基本目標 III 1. あらゆる暴力の根絶、試作目標 1)、2) の達成度を測るものが意識調査の結果で図るだけでは不十分ではないかと考えます。ウェブサイトにはありませんでしたが、例えば、警察と連携して具体的な DV の通報数などの情報はもらえないのか、また桐生市で DV 相談窓口が設置されているので、ここから何か公表できる数値などあれば、こうした具体的に DV の状況が減少、増加しているなどの情報も指標として追加したほうが良いかと思えます。</p>	<p>DV の通報数や相談件数については、DV に対する認識度の上昇や相談窓口の周知によって短期的には増加することが望ましいと考えますが、実際の発生件数は当然のことながら減少が望ましいとする中で、このような指標となりました。 なお、市役所各課で受けた DV 等の相談件数については、本計画から各種施策に対する評価の指標として、毎年度報告を行っている桐生市男女共同参画計画実施状況報告書に掲載予定です。</p>
9	<p>防災に関しては、現在市で実施されている事業の中で防災訓練等の参加率が指標になっていますが、現状の防災訓練の内容は女性が参加することにより将来的な災害発生時、または防災の観点から女性の視点が入りうるような内容になっているのでしょうか。久しく避難訓練など参加していないので市で実施している訓練内容がわかりませんが、単に集団で非難するだけの訓練が主流であれば、女性の訓練参加率向上以上に、男女参画に合致する指標があるのでは、と感じました。(例えば、各年代の男女をメンバーに加えた防災計画策定の実施などもあ</p>	<p>地域の防災力強化に向けては、さまざまな年齢、性別等に応じたニーズに配慮した取組が必要であり、特に避難所運営においては、トイレや授乳など、災害避難時の女性に特化した配慮が求められます。このようななか、女性の視点から防災を考察することは大変重要であり、多くの女性が地域の防災訓練や各種研修等に参加し、防災への意識や見識を高めていくことが、その視点を反映していく上で有意義であると考え、このような指標としております。 いただいた貴重なご意見を参考とし、今後の地域防災への女性参画の促進に努めてまいります。</p>

	りうるのでは。)	
10	<p>III 安全安心に暮らせるまちづくりの3. 生涯にわたる健康づくり支援が突然現れている印象です。多分、県などの上位文書にこれらが含まれているなどの理由があるかもしれませんが、男女参画計画になぜこの健康が含まれるのかについては、どこかで説明を少し入れた方が分かりやすいと感じます。また、現状ではIIIの安全安心と健康づくりがやや結び付きにくいのではとも感じます。4支援を必要とする人が安心して暮らせる環境づくりに入れてしまっても良いようにも思います。指標については、私だけかもしれませんが「特定健康診査」がよく分かりませんので、脚注を記載いただけると助かります。またもう一つの堀マラソン大会参加者数はP.9の*4で説明されているウェルビーイングの説明と合致しない指標(身体だけでなく、精神的、社会的に良い状態、と説明しているのに、市で主催するマラソン大会の参加者数だけでは身体の良い状態の人で走るのが好きな?人だけを対象としている)なので、一貫性を持たせた指標が見つけれらると良いかと思えます。</p>	<p>一人ひとりが年齢を重ねながらも安心して暮らしていく為には、男女が互いの性差に応じた健康について理解を深めつつ、その性別やライフステージに応じた保健、医療を受けることができ、個人のライフスタイルに合った健康づくりに主体的に取り組むことが重要であるという考えから、この位置に生涯にわたる健康づくり支援を組み入れました。</p> <p>指標については、「特定健康診査」の注釈を記載しました。</p> <p>また、堀マラソンの「参加者数」は“大会がどれだけ多様な市民に健康行動の機会を提供できたか”という到達度(リーチ)の指標であり、ウェルビーイングの定義(身体・精神・社会の良好さ)そのものを測る趣旨ではありません。ご理解のほど、よろしく願いいたします。</p>
11	<p>外国人向けの日本語教室参加者数も市内の外国人人口の記載ない中、国際交流協会実施する日本語教室の参加者数だけでいいのでしょうか。P.27の説明では、在住外国人への日本語学習支援には、「日常会話を中心とした日本語教室の実施や学校における日本語指導支援等を実施します。」とあります。学校での支援については、成果目標として記載ありません。</p>	<p>国際交流協会の日本語教室は、市が直接関与でき定義・集計が安定しており、年度を超えた継続比較が可能なため、転入・転出動数が多外国人人口に対する日本語学習受講率よりも、長期在住を前提とした外国人の受講者数が伸びることが日本語教室の主旨に合致するものと考えておりますので、日本語教室の参加者数は支援の到達度を測る一次指標として妥当であると考えます。</p> <p>なお、人口は潜在的ニーズ、参加者数は実際の利用を示す別軸の指標であり、人口記載がなくても参加者数の推移は運営改善や供給量の適正化に資する有効なデータであると考えます。</p> <p>また、学校での支援については、現状では日本語指導に関する相談があった全ての生徒に対して、個別の指導計画により支援を行っております。</p> <p>いただいた貴重なご意見については、今後の男女共同参画施策の参考にさせていただきます。</p>